

令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録	
開催日時	令和3年1月21日（木）13時58分～16時10分
開催場所	江田島市役所 4階 401・402会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>小跡 孝廣 江田島市自治会連合会 原 明子 江田島市PTA連合会 名島 綾香 江田島市認定こども園のうみ保護者会 小原 正清 江田島市農業委員会 久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会 平田 圭司 江田島市商工会 市村 匠（座長） 公立大学法人県立広島大学 植野 建二 江田島市金融懇談会（広島銀行） 三吉 邦明 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 梅田 真紀 広島県健康福祉局子供未来応援課</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】</p> <p>奥田 修三 企画部 部長 畑河内 真 企画部企画振興課 課長 山崎 充宏 企画部企画振興課企画係 係長</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン】</p> <p>行竹 和幸 門野 淳記</p>
欠席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会 伊藤 富美雄 江田島市観光協会 上迫 滋 広島県CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング総括監）</p>
傍聴者	1名
会議次第及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 協議事項 第2期人口ビジョン・総合戦略（案）について【資料1～4】 4 報告事項 （1）第1期総合戦略数値目標の進捗状況について【参考1】 （2）令和2年度市民満足度調査の結果について【参考2】 （3）地方創生推進交付金事業の実施状況について【参考3】 5 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1：第1期人口ビジョン・総合戦略の概要と課題及び第2期における対応方針等 資料2：第2期人口ビジョン・総合戦略（案）の概要 資料3：第2期人口ビジョン・総合戦略（案） 資料4：パブリックコメントの実施について 参考1：第1期総合戦略数値目標の進捗状況 参考2：令和2年度市民満足度調査の結果について 参考3：地方創生推進交付金事業の実施状況について 参考4：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

会 議 記 録	
事務局	<p>1 開会</p> <p>数分早いですが、皆さんがお揃いなので、始めさせていただければと思います。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の会議の開催に先立ちまして、事務局からお知らせいたします。</p> <p>本日の会議資料につきまして、御確認をお願いいたします。事前に郵送させていただいた資料ですが、次第と委員名簿、そして資料1から資料4まで、参考資料が1から4までございます。資料に不足がございましたら、事務局にお申し付けください。</p> <p>なお、本日は、議事録作成のため、会議を録音させていただきますので、御了承いただければと思います。</p> <p>それでは、ただ今から、「令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開催いたします。会議は、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>始めに、座長から、御挨拶をお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>あいさつとありますが、今日の会議では、来年度からスタートする「第2期人口ビジョン・総合戦略（案）について」を中心に皆さんと議論させていただきたいと思います。</p> <p>事前に資料が配布されているので、かなり分厚い資料だと思いますが、目を通されたかと思います。この後、自己紹介があって、資料の説明があると思います。皆さんには、それぞれの立場で御出席いただいていると思いますので、御意見を願います。どうぞよろしくお願いいたします。今日は、2時間ですね。</p>
事務局	はい。
座長	2時間を予定しています。だいたい終わらないので、巻きが入って怒られるというのもありますけれども、皆さんの意見を大切に進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。以上です。
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今、傍聴の方でメディアの方がいらっしゃってまして、よろしければ会議の様子を写真を撮りたいということですが、皆さん、差し支えないでしょうか。</p>
各委員	※ 了承
事務局	<p>はい。そういうことで御了承いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日は、当会議が今年度初めての開催であり、委員の皆様におかれましても、各所属での異動等により、初めて御出席いただく方もいらっしゃいます。改めまして、皆様に一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、お願いします。</p>
各委員	※ 自己紹介（P1の「出席者－有識者会議委員」を参照）
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、事務局の方からも自己紹介を行います。</p> <p>※ 事務局から自己紹介</p>
事務局	<p>以上が事務局でございます。</p> <p>また、この会議には、議事録等の作成支援として総合戦略等の作成支援業務の委託先である株式会社エブリプランから2名の方に御出席いただいておりますので、お知らせいたします。</p> <p>なお、本日は、3名の委員については、所用のため、御欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>それでは、当会議の進行につきましては、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱の規定によりまして、座長が議長となりますので、ここからの進行は、議長へお願いいたします。</p>
座長	<p>ありがとうございます。ここからは、私が務めたいと思います。</p> <p>それでは、協議事項として、第2期人口ビジョン・総合戦略（案）について、事務局から御説明ください。</p>
事務局	<p>3 協議事項 第2期人口ビジョン・総合戦略（案）について【資料1～資料4】</p> <p>※ 内容は、資料1～資料4のとおり</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>これから何についての御意見を伺うかという、基本目標がⅠ～Ⅳまであり、これについて考えていけないといけない。</p> <p>まず、この第2期総合戦略の案では、重点ターゲットを「若年層」と「子育て世代」としています。さらに、この計画が終わる令和7年度（2025年度）の5年間において、555人の人口効果を生み出すことを想定しています。この555人という数字の意味と重みは、示されているグラフから考えて、人口減少等を考えると、決して低い数字ではないと私も思っているのです。そういったことを実現しようとするために、今の4つの目標、軸について皆さんから、お話や御意見を伺っていきます。</p> <p>まず、基本目標Ⅰの「地域で暮らすためのしごとをつくる。」について、協議させてください。ここから、関連する委員の方にそれぞれ伺っていきます。</p> <p>江田島市金融懇談会の委員さん、市内の事業所の動向など、仕事に関する状況について所感等があれば、御紹介ください。さらに金融機関として、これらの重点取組項目について、御意見があれば、お聞かせください。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、江田島市内の、私を感じる状況でございますけれども、コロナで非常に厳しいわけですが、江田島市内の中で倒産が出ているという状況ではありませんが、廃業されていらっしゃる会社というのは、やっぱりあります。そうすると、当然就業者が減ることになります。その上、対岸の呉には日本製鉄がありまして、工場を閉鎖することは決まっていますけれども、そこで江田島市内に住まわれている方が職を失われるということも当然あり得るのかなど。ただ、非常に強いところもありまして、家族経営をされていることや、今までしっかり経営されているということで、銀行として大きく江田島市の市場が揺らいでいるとは思っておりません。</p> <p>私が第2期総合戦略で思っていることを申し上げますと、先ほど、市民への聴取が不足されていると、若干ありましたけれども、私は1つ知りたいことがあります。それは、中町、飛渡瀬やゆめタウンの辺りにアパートがたくさんできてきています。あれは、誰が、どういう人が住まれているのかということが、実は知りたいです。要は、この計画は人口を増やす、あるいは維持するという話。あそこは、少なくとも若い世代が入居されているのだろうと予想します。その人たちは誰なのか、島の方で親と同居するのが嫌だから住まれているのか、あるいは島の外から来ているのか。例えば、中町の辺りであれば、広島までフェリーで30分、そこから30分すれば広島を中心地に出ます。私は、元々、府中町在住ですけれども、大手町支店に行こうと思うと、公共交通機関で1時間かかります。そうしたら、中町から広島銀行の大手町支店に行くのは、多分1時間で、同じです。だから、もしかしたら広島のベッドタウン、あるいは雇用の関係で呉のベッドタウンの効果があるのかとか、飛渡瀬の方は車で呉に行かれているのかとか、そこら辺をできれば知りたいです。どういう人があそこで増えているのか、しかも若い世代であるのか知りたいです。</p> <p>あと、この中期計画ですが、私は銀行員ですから取引先に中期計画として3年、5年の計画を出してくださいということを申し上げます。実は、なかなか今の世の中の流れが早過ぎて、計画してもそのまま行くということは、まずあり得ないです。情報をまず早くキャッチして、それに早く対応するということが大事です。</p> <p>ここにある基本戦略というのは、おそらく、今までもこれからも絶対、ずっとあり続けるものだと思いますけれども、ただどうやってやるのか、目標は同じであっても、中身が変わってくるはずなので、そこをどうやってやるかということです。特に、先ほど若年層へ向けてとか、子育て世代へ向けてとありましたが、私が思うのは、いろいろ散りばめられていますけれども、やはり、江田島市を知っていただいて、江田島市を好きになっていただくということが一番若い人の入り口だと思っています。そうしたら、今までも広報活動をされていたと思いますが、今の若い人は基本的にYouTubeやインスタグラム、インフルエンサーや「バズる」とか、共有を大事にするのです。これがハマると、ものすごい効果があって、押し寄せるぐらいに人が来て、それで好きになって住むということもあり得るのかなど。先ほどのやり方を少し変えるという中でいえば、やはり、若い人の意見というのも少し聞いたらどうかと思います。</p> <p>いわゆるインスタ映えするものは、景色がすごくきれいなところで、それ自体は、元々、そうなのかもしれないし、あるのに気付いていないだけかもしれない。昨日、た</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>またまテレビを見ていて、800年ぐらいの神木がある中に穴が空いていて、それが角度によってはハート型に見え、それだけで人が来ていました。ハート型に見えることを見つけただけですが、そういうことが、もしかしたら発見かもしれないし、あるいはつくるといふことかもしれません。やはり、若い人に来ていただくと島の活気が出てくるのかなと。</p> <p>それと、あとは、コロナ対策です。ここには入っていませんが、やはり悪い面が多いですけれども、夏頃にキャンプ場が満杯だと、よくニュースが出ていましたけれども、江田島市は密じゃないということであれば、非常に環境がよい部分もありますので、そこを生かしてはどうでしょう。しかも、ホテルができることもあり、そういうことと併せて、流行りではなくても今後につなげられるような形で、今、人に会えないという中で、この時期に何を考えるかということ、非常に大事なのかなと思っております。以上です。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。どうですか、答えられますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。最初にございました中町、飛渡瀬の辺りにアパートが建っていることでございますけど、まだ、ここ2年ぐらいでようやく取れるようになったデータなので、蓄積はないですが、市外の方なのか、市内からの移動なのかということ、ここ2年の傾向でいったら半々ぐらいのイメージです。市外から来られて転入でプラスになっているのと、あと、市内移動でプラスになっている。この両地区については、そういった傾向がございますので、もうちょっと年数を重ねて見てみたいところもありますが、ここ2年の感じであれば、半分ぐらいかなというように、そのようなイメージで動いています。</p>
<p>座長</p>	<p>個別の状況は全く答えられないと思うので、今言ったところは、このアパートに誰が住んでいるのではなくて、この地域において、どういう人口の移動があるかを言いたいということをお聞きください。</p>
<p>事務局</p>	<p>あとは、若い人向けのSNSの話もございましたが、そちらについては、例えば、今回のプロジェクトで入れておりますけど、体験型観光メニューを今後つくっていくということも、取組に掲げております。それをやっていくときに、今でもSNS、中でもインスタグラムを使った重点的な広報をしておりますので、それぞれの取組を進めていく中で、効果的なPRの方法というのは、それぞれ考えていくようになっていくのかなと思っております。あとは、密でないところのPRもそうです。いろいろな市の広報ツールも持っておりますので、そこら辺もうまく使いながら取り組んでいきたいと思っております。以上です。</p>
<p>座長</p>	<p>では、次の委員の方をお願いします。呉公共職業安定所の委員さんをお願いしたいのですが、市内の事業所の動向など仕事に関する状況について、何か所感があれば、御紹介ください。また、公共職業安定所の立場から、これらの重点取組項目について、御意見を伺えればと思います。よろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>ハローワークとしてですが、具体的には、江田島市からの求人がハローワーク呉にどれだけ出ているかということ、現実的には、あまり出ていないような感じを受けています。これは、2年前の会議のときにも同じように言っていると思いますが、だいたい血縁、地縁といった近所で話をして人を集めるのが多く、あとは、江田島市の事業所の方がハローワーク呉まで来て求人を出すのかと思います。</p> <p>ただ、実際に働く方にとって、江田島市内の方が近くて現実的になるので、ハローワークに来て、求人を見て、紹介を受けて、それから会社に面接に行くというのが、なかなか現実的ではないのかと。そういったこともあって、社会福祉協議会とも話をすることがありますが、社会福祉協議会でも職業紹介をやっているのですが、そちらで相談、紹介を受けている方は、それなりにいると聞いております。</p> <p>ハローワークとして、市内の動向、企業の動向がどうなのかということになれば、先ほどの委員さんも言われたように、どういったところが倒産したとか、コロナで影響を受けたとかということまでは把握していない状態です。</p> <p>それから、日本製鉄の話も少し出ましたけれども、現在、呉市との共催で日本製鉄及び関連企業の従業員、昨年9月の高炉休止の影響を受けて職を失い、転職をされる方を対象とした、採用を考えている企業を集めた相談会、事業主に参加していただく相談会を、この2月に予定しております。しかし、その従業員の参加募集は、コロナの影響も</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

委員 (続き)	あつて、2日開催するのですが、1日100人ずつの完全予約制で予定しております。その受付は、呉市で現在、行っています。1月12日から26日まで呉市のホームページで受付をして、それから参加希望のあった方を抽選で100名ずつ選ぶという形になっておりますが、江田島市在住の方が、そのうち、どれぐらいいらっしゃるのかというのが、現状ではまだ把握ができておりません。ただ、ハローワークに来られる従業員も、あまり江田島市の方はいらっしゃらないという状況です。ただ、全然いないというわけではないでしょうから、来られた方について、ハローワークは基本的には出張して、小まめに相談するというところまではできないので、日本製鉄の関係であろうが、そうでなかろうが、状況を聞きながら小まめに相談をしていくという取組をやっているというところ。申し訳ないですが、江田島市に特化して何かができているかという、そこはできていないかなという感じです。
座長	ありがとうございます。 では、次に産業団体の委員の皆様にご各産業の状況を御紹介いただくとともに、先ほどの基本目標Ⅰのところの項目について、御意見をいただければと思います。まず、農業委員会の委員さん、お願いいたします。
委員	まず基本目標Ⅰだけでよろしいですか。それとも全体的に。
座長	基本目標Ⅰでお願いします。
委員	はい、分かりました。 その前に、私もUターンで帰ってきて6年目で、総合戦略を見るのは初めてですが、まず、1つお願いしたいのは現状の数値は記載されているのですが、なぜ、そうなっているのかという深掘りは、この中に見えないです。深掘りがないと、それに対してどういうふうな処置をするかにつながらない。人口が減っていることに対し、なぜ減っているのか、何が要因なのか、その要因に対して何でそうなのか、そういった掘り下げがいないか。これが全体の話です。 この計画の中で、特に農業分野については、この555人というものに対する寄与度がかなり大きい。つまり、それだけ農業分野に対して期待が大きいという認識はありますが、その中で、まず、例えば、プロジェクト2のところ品目の1つとしてオリーブという項目があります。これについても、これまで10年の実績等々を見ると、計画の中で1項目をピックアップして期待することが妥当なのかどうか、非常に疑問に思っております。この辺りは、もう少し担当部署と整理してほしい。これは、事前に担当部署には、申し上げております。もう少し中身を精査して、どういう方向がよいのかを精査してください。少なくとも1項目を起こすほどのものではないと思っております。 それから農業分野においては、確かに、野菜でキュウリは県下の産地になっておりまして、ぼつぼつですが、新規就農者も出ております。それが、今後どうなのといったときに、少ないと見るのか、多いと見るのか、これからまだ増えていく可能性があるのかどうか。その辺りも、もう少し見ないと。要するに1人、2人、増えていくのは事実ですが、これをもう少し増やしたいといったときに、何が足りないのかだと思っております。 最近、私が思うのは、江田島市という地域は、地理的に決して不便なところではない。私も東京に住んでいたのですが、片道1時間半、2時間通って行きました。さっきお話があったように1時間で中心部に、港からですけど、行けるわけです。それも座って行けるわけです。私らは、ずっと立ちっぱなしで1時間、2時間かかっていましたから、それに比べると船というハンデはあるものの、逆にメリットなのだというPRがどうも足りていないような気がします。 それから、せっかく自衛隊がいらっしゃいます。全国異動です。その人たちが、どんどん転勤で全国に散らばっていくわけです。その人たちが一番よい広報大使になると思います。私も今、帰ってきて農業をやっていますが、この秋に収穫時期です。自衛隊の方、今、横須賀に転勤になりました。彼は、夏に転勤で横須賀に行きました。彼から私のところにミカンを送ってくれとか、今の時期はこれが収穫できるのだったら送ってくれといった話があります。こういうのは、ここにある縁だと思っております。そういったものをもっと具体的に散りばめていかないと、ただ、縁を持った人を活用しようでは

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

委員 (続き)	なくて、そういったところをもう少し深掘りをして理解していかないと、いくらワークショップをやっても、なかなか市民の方から見てピンと来ないのかなと思いますので、その辺りをお願いしたいということで、まだまだありますけども、とりあえず、これで以上。
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>オリーブ1品目という話がありましたけれども、これにつきましては所管からどう考えるか、どう整理していくか、また話をしてみようと思います。</p> <p>また、PRですね。自衛隊なり何なり、そういったものを生かしたPRというのは、まだできる余地があるというのはおっしゃるとおりだと思います。それぞれ、何をPRしていくというのはあるのですけど、観光なのか、定住関係なのか、子育て関係なのか、そういったものをPRする際に、おっしゃっていただいたような自衛隊にお願いするという方法は、確におっしゃるとおりだと思いますので、PRする方法という面でいろいろ工夫していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
座長	それでは次に、漁業振興協議会の委員さん、お願いします。
委員	<p>私は、漁業協同組合の組合長ですが、漁業者は今、江田島市で11の漁業組合がありまして、正・准も合わせて1,250名程度、組合員がいます。現状は、江田島市の人口減少と比例して、漁業者も減っています。強いて挙げれば、カキ養殖業、それと一部のイワシ網漁業とか、特定の漁業収入で収益を確保しているわけですが、漁業を高齢者が行うのは、年金を貰いながら海に親しむ程度で、全く収入が上がっていないような状態です。これをどういうふうに対応して、仕事を増やしていくかを、我々も真剣に考えているような状況です。</p> <p>一部、光が当たったと思うのは70年ぶりに、昨年12月1日に漁業法が改正になりました。主な改正は、漁業者、漁業組合の特権で、区画漁業、共同漁業が漁業をする上で優先順位が1番だったのですが、これからは地元の合意形成が得られれば、例えば、ハゴロモやクニヒロなどの加工業者も区画漁業権の中の筏、魚類養殖の筏、価格漁業権の中の筏、漁業養殖の筏が、行使できるような制度に変わりました。これは我々も、漁業者の首を非常に絞めるのではないだろうかという危機感も持っていたのですが、やはり、これから先は、潤沢な資本を持った企業が先導になる。地元の漁業者、例えば、カキ養殖業者も、今、300業者ぐらい広島県にいますか、徐々に減っております。高齢で赤字にならないうちに辞めておこうとか、今、借金がなくなるときに廃業するとか、後継者がいませんとか、そういう問題を引き受けて合わせて地元の合意が得られれば、行使できるというような形に変わったのです。ただ、これは今、地元の我々が漁業をやっている上で、いかにメリットがあるか、デメリットがあるかを、いろいろ協議して決定しないといけないです。そのような形で観光もしかり、今ある漁業権もしかり、そういうところにスポットを当てて資本を入れていただいて生産を上げていくような企業が出てきて、これからいろいろな形で行使させてもらえないかというような話が出ると思うのです。</p> <p>そのようなところにスポットを当てて、漁業者が生き残る権利もありますので、首を絞めるというわけにはいきませんので、そこを事前に協議しながらやっていけるような形で今、秋月の加工業者等から、いずれは廃業するような養殖業者とタイアップをして、漁業の代表、カキ養殖の代表という形でコラボするような話がいずれ出てくると思う。そこでどういう調整をするかというのは、まだ漁業法が変わったばかりですから、いろいろなハードルはあるのですが、広がるような方向性を見だしていかないことには形になりません。そこで、またいろいろな行政等の縛りがあるのですが、そのようなことをひとつのテーマとして、漁業者を育成していくのももちろんひとつですが、やはり、せっかく今カキやハマチ等養殖をする海があるので、そこをアピールして使っていただく。しかも、零細企業では駄目です。2年ぐらいやって、結構赤字覚悟でできるぐらいの企業でなければ、なかなか思うような生産性が上がっていかない。そのような状況だから、やっていくような形で広がるような方向を見出せればと思っているような状況です。このまま行くと、確実に江田島市の人口と並行して、漁業は数百人程度に落ち込むと思われる。そこをこれから、また、いろいろな協議をしながらやっていくような思いでございます。</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

座長	ありがとうございます。次に、商工会の委員さん、お願いします。
委員	<p>皆さんの意見をお伺いしていると、この基本目標Ⅰに関しては、ほぼ私の担当するエリアだと思っております。</p> <p>まず、コロナの話が出ますが、日本全国影響を受けており、当然、江田島市でも大変な影響を受けておりました。1月10日現在の商工会に対する相談件数が1,600件を超えております。非常に皆さんが困っていらっしゃる。特に、売上げの減少に伴って、従業員の雇用の問題であるとか、運転資金の問題であるとか、本当に目に見える形で疲弊していくのが分かる状況でございます。これに対して商工会としても日夜、江田島市内で1件たりともコロナによる廃業を出さないという強い決意の下に、夜遅く、本当に21時、22時まで職員の皆さんが頑張っております。なかなか届かない部分、見えない部分もあると思うのですが、国、県、市の施策によって、何とか皆さんが持ちこたえていただいている状況です。</p> <p>特に、強調して言いたいのは、なかなか市民の皆さんに見えないかもしれないですけど、江田島市は、広島県内においても、コロナ対策事業、支援として非常にたくさんのメニューを用意していただいて、これを市の事業者の方々に活用していただいております。持続化給付金や皆さんが聞いたことがあるもの以外にも様々な支援をいただいておりますので、これも非常に皆さんから感謝されている。特に、消費の観点からいうと、エタジマミライトというお食事券もさせていただきまして、市の方でも案配をいただいで、非常に飲食店の支援につながりました。食材に関しても、野菜であったり、魚であったり、いろいろとやっぱり飲食店に頑張っていたかかないと、なかなか厳しい状況であって、これに関しては、コロナの補償がありませんので、飲食店の支援をすること、コロナ収束後に、また皆さんが会食機会を設けて外食していただいたり、様々な形で人と人との触れ合いをつなげていくことで経済の再生が図れると思っております。</p> <p>先ほどハローワークの方がおっしゃっていましたが、我々も、コロナによる離職に対して対策を少しでも協力できないかと、今朝もハローワーク呉と御相談させていただいた状況でございます。いろいろあると思いますが、これが総合的に、皆さんにご理解いただいで見えてくるのだけど、努力はなかなか見えないのです。PRも含めてということですが、これもまた、PRというのもおかしな話でございますので、日夜そんなことをやっているところもあるのだなとお感じいただいで、また、隣にいらっしゃる広島銀行様には金融面で非常に江田島市内経済を支えていただいているということで、本当に、心より感謝をしたいというふうに思っています。</p> <p>プロジェクト1の創業・起業促進、企業誘致、地場産業の活性化、担い手の確保、全てやっています。プロジェクト2の生産量増加、高付加価値化、6次化、販売拡大、プロジェクト3の観光魅力づくり、私は観光協会も関わっておりますので、観光に対しての強化、求人情報もです。先ほどのハローワーク呉の所長さんも、わざわざ江田島市にお越しにいただきました。去年も、「江田島市内にホテルができますので、まとまった求人があるので、何とか特別に御支援をいただけないか。」というお願いをさせていただいております。さっき、資料3の43ページで、例えば、「中小企業者」を「中小企業者・小規模事業者」の言い方が、我々にとってポピュラーであるので、「小規模事業者」も加えていただければ幸いです。</p> <p>この専門家派遣事業というのは、一生懸命やっています。目標数値が当然出のですが、我々は無料で専門家の派遣支援ができますので、こういう経営課題に対して一緒になって取り組んでいくことができると思います。創業支援については、下のところを見てください。創業支援はもう5箇年以上やっていますけど、市内で創業塾を開催させていただいて、今のところ1回当たり20名以上の受講者がいらっしゃって、もう受講枠があふれて、昨年10月にあった会では40名近い受講の方がおられて、実際に江田島市内に起業していただいているという数値もあります。この数値をもっともっと高めていくこともできますので、実際に起業していただくだけではなくて、実際に成功するところまで伴走型として支援して応援をさせていただきたいという体制を取らせていただいでいますので、そこも加えさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。</p>
委員 (続き)	
座長	ありがとうございます。資料の小規模と中小、ここの訂正は可能ですか。

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

事務局	<p>いただいた御意見のとおり、加えさせていただこうと思います。ありがとうございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私は、あまり自分の意見を言うといけないと思っていますが、他市町で創業支援をやっている協議会の委員でもあります。数値的な移り変わりを見ますと、コロナで緊急事態宣言が出た後は当然ながら、実績というものは、ほぼゼロに近い状態になりました。その後、解除されて7月、8月ぐらいになると、創業の相談数が非常に増えています。私が見ているのは10月ぐらいまでですが、なぜ増えているかというところを調査しました。「今、働いている事業所等で雇い止めをされそうなので、このままだと食べ口がなくなるから、今やっていることを基に新しい事業を興せないか。」という相談がどこの市か分かりませんが寄せられたこともあって、必ずしも数値が上がっているからよいということではなくて、その理由にいろいろあると思う。江田島市の場合は、細かいところは知りませんが、産振構（公益財団法人ひろしま産業振興機構）で全体を見ると、創業関係の事業にいろいろ参加される方は増えています。その中で金融機関が、いろいろテレビ会議等も含めて入っています。そういったものや数は増えています。それに対して、さらに「よろず支援相談」が産振構にあって、商工会がやられているのと同じような感じで行っており、その数というのはとんでもなく増えているという状況があります。</p> <p>この基本目標Iで書かれている事業のいろいろなプロジェクトがあるかと思いますが、コロナ禍という点を考えて、場合によっては下方修正が必要になる可能性があることを改めて考えられた方がよいと思います。</p> <p>では、基本目標IIとIV「人の流れをつくり、縁を有する人を増やす。」と「元気に暮らし続けられるまちをつくる。」について、お話を伺いたいと思います。自治会連合会の委員さんにお伺いしたいと思うのですが、現在のまちづくりの状況やまちづくりの担い手に関する課題など、何か所感がございましたら、御紹介ください。また、地域住民の立場として、これらの重点取組項目について、御意見があれば、お聞かせください。よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>元気に暮らし続けられるまちづくりについては、自治会の状況について説明をさせていただくのですが、江田島市においては、旧4町が合併をして現在は31の自治会がごさいます。単位自治会です。この31の自治会は、江田島市に共有されている所帯を対象に運営をしていて、いわゆる任意団体の仲間です。これは当然、旧町時代から、それぞれ各地域に自治会のある地域もありましたし、全くなかった地域もごさいます。しかし、平成16年（2004年）に合併をしてひとつの市になったのだから自治会を全市に広げていく、全市に設置が必要だということで、平成17年（2005年）から約2～3年をかけて、各地域に自治会が誕生いたしました。それと合わせて、まちづくり協議会を自治会の中に設けなさいというような国の指導があったと記憶しております。自治会とまちづくり協議会というものは、ほとんど同じ組織で、同じ住民が運営をしていると捉えていただければと思います。</p> <p>現在、自治会は、31ごさいますけれど、まちづくり協議会の結成状況は、約90%と認識しております。自治会運営に当たって、非常に問題になってくるのが、全国的な状況だとは思いますが、役員の手がいないのです。江田島市の場合は、若者はほとんどが島外へ働きに出ておられます。役員になると、日中に活動していかないといけない行事もごさいます。年齢からいって、大体平均して70歳以上ぐらいの定年退職をされた方がほとんど役員をされている。一旦、役員を引き受けると、なかなか次の役員、新しい役員にバトンタッチができないという状況が、ほとんどのところで現実ではないかと思えます。そういう意味合いからして、やはり自治会のあり方そのものも、役員の受ける方法そのものも、ある程度、市内一律なものの考え方というのが必要になってくるのではないかと思います。</p> <p>一番大きな問題は、先ほど31の自治会があると言いましたけれども、小さい自治会と一番大きな自治会との間に人口にもものすごく差があるのです。小さい自治会は50所帯ぐらい、大きい自治会は1,000所帯あり、負荷がものすごくあるのです。だから、自治会運営になると、業務バランスがすごく崩れてきていると思えます。これらを解消するために、まちづくり協議会ができていますが、やはり、このまちづくり協議会に</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>しても所帯数に応じた補助金の配分方法になっておりますので、そのようなことも当然、考慮しながら自治会活動というのをやっていかないといけないと感じております。</p> <p>それと、これは蛇足ですが、この間テレビを見ていたら、あるテレビのアナウンサーが呉市出身の方で、特集で江田島市を取り上げたときに、「私は呉市に住んで、アナウンサーとして就職するまで呉市に長いこと住んでいたのだけど、隣の江田島市のことはほとんど知りません。」と放送で喋られたのです。それを聞いたときに、私はがく然としました。目と鼻の先にある江田島市を知らない。それを公然と放送で喋られると、「江田島市はすごく田舎なところだ。」というイメージを視聴者に与えられてしまったような思いをすごく持ったのです。そのような意味合いからすると、やはり、江田島市について、もう少し幅広くPRをしていく必要が絶対にあると思うのです。今も、明岳市長が中央の方に行っても、江田島市をよく知っておられる方が少ないと言われるのです。だから、市長も江田島市のPRをもっともっと強く押し進めていかないといけないとお話しされていらっしやいました。私もまったくそのとおりだと思います。</p> <p>やはり、江田島市の人口が、資料にあります令和27年(2045年)に、最終的に1万ちょっとになります。このようなことになると、やはり、一自治体としての体が成されないような状況になってくると思います。当然、自治会にしても、しっかりと対策したいと思います。そのためにはどういうことが必要なのかというのは、本当に真剣に考えていかないと江田島市そのものが潰れてしまうのではないかという危機感を持っています。質問の内容の答えにならないかもしれませんが、私の思いとしては、以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>はい、ありがとうございます。何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。おっしゃられるとおり、人数が減っていくとコミュニティーの運営等にも影響が出るということがあって、こういう総合戦略を掲げるのは、一部に過ぎないですけど、人口は確保していかなければ、それ以外の面でも暮らしが成り立たなくなるという大きな問題だということを、共通認識としてしっかり知らせるという努力を、我々もいるのかなということを、ひとつ思いました。</p> <p>あと、呉のアナウンサーが江田島市のことを知らないというのは、何年か前にアンケートをとったときに似たような回答があり、広島市民と呉市民が江田島市をあまり知らない。</p>
<p>委員</p>	<p>ごめんなさい。全てのアナウンサーがそうじゃないのです。たった1人の方です。聞いた方はいらっしやると思うのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>とはいえ、最近でいったら、感覚としてはローカルニュース等で江田島市が取り上げられる機会がすごく増えていると思います。正直、私は7年前に江田島市に来ましたけど、そのときに比べて、今は絶対、テレビなり新聞なりで取り上げられるというのは格段に増えています。それは何かといったら、いろいろな積み上げてきた取組です。努力により、これは面白いというものが取り上げられているという状況があると思いますので、ローカルについては、結構江田島市は面白いというのは、市外では認知が広がっているという声をよく聞きます。あとは、全国にどう行くかという辺りです。そういった全国に通用するようなネタを見つけながら発見していくというのも、引き続きやっていきたいと思います。御意見をありがとうございます。</p>
<p>座長</p>	<p>今、市内、市外と言っていましたけど、世界もあります。台湾に行ったときに、「広島のカキ」ではなくて「江田島のカキ」と書いてあったのです。そういう、どなたかがやっているのだと思うのですが、以前に比べると課長が言うように、メジャーにはなってきている。それをどうやって定着や、もっと広げていくかも必要だろうと思います。</p> <p>では、次に行きたいと思います。基本目標Ⅲ「子どもが生まれ、育つ環境をつくる。」です。広島県健康福祉局子供未来応援課の委員さんにお尋ねいたします。県における少子化や子育てに関する動向、取組の状況を御紹介ください。また、これらの重点取組項目について、御意見をいただければと思います。お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。基本目標Ⅲについてですが、その前に全体的な感想を言わせていただいてもよいですか。今回、第2期総合戦略の概要ということで、施策分野を人口問題と関連の深い「しごと」、「子育て」、「健康」、「定住促進」に絞り込まれており、本当にとて</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>も分かりやすい施策構成になっていると思います。特に、基本目標Ⅱは、いきなり定住ではなくて、知ってもらって、来てもらって、好きになってもらってから、暮らしてもらうというステップがちゃんと構成させているところも、すごく分かりやすいと思います。また、想定人口の効果合計 555 人ということで、個々の項目ごとに想定し、人口効果を数字で表されて、それを積み上げていったら 555 人になりますということで、これは 555 人が 5 年間取り組んだ結果、増えたかどうかというような検証は難しいと思うのですが、この取組をそれぞれの事業課でやられる上でも最終的にこういうところを目指しているのだと、その施策効果はこういうものだというのが分かりやすく、とても素晴らしいと思いました。</p> <p>それから、基本目標Ⅲですけれども、「子どもが生まれ、育つ環境をつくる。」ということで、特に重点的にされているのは特色ある保育ということで、江田島市の自然を活用された、自然の保育をされるということで、これは県でも、人づくり、人材を育成していく上で、乳幼児期から子どもたちの資質、能力を育成していくという体験型の保育をしていくというのは本当に重要な取組だと思っていますので、これは本当によい取組だと思います。また、子どもが生まれ育つ環境をつくる上で、核家族化が全国的にも進んでいまして、広島県でも子育て家庭が孤立せずに安心して子どもを生み、育てる環境づくりというのが不可欠だと思っていますので、この資料3でいうと、71ページ、72ページの子育てしやすい環境づくりのところの子育ての仲間、グループづくりや、妊産婦へのケアの実施、ファミリーサポートセンターの運営が盛り込まれているのは、とてもよいことだと思います。</p> <p>ただ、少し欠けておられると思いますのが、国の第5次少子化社会対策大綱においても妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築が掲げられておりまして、広島県でも市町の子育て世代包括支援センター、いわゆるネウボラ拠点と私たちは言っているのですが、そこが医療機関や保育施設、子育て支援拠点といった関係機関としっかり連携をして、妊娠期から子育て期まで切れ目なく、子育て家庭を見守って、支援していく体制をつくりましょうということを進めておりまして、平成 29 年度 (2017 年度) から一部の県内市町で取組を開始して、来年度は 13 市町まで導入が拡大しています。江田島市では、1箇所、子育て世代包括支援センターはつくられているのですが、そこが核となって、他の関係機関と連携をしていくところが、まだ弱いのかなと思っています。実際、71 ページに子育て世代包括支援センターのことが書かれているのですが、この「にこにこひろば」を周知することしか書かれていないです。是非、医療機関や保育施設、それから子育て支援拠点といった関係機関と連携をして、妊娠期から子育て家庭をしっかり支援していくことを進めていただければと思っています。これは令和7年度(2025年度)までの戦略ということですので、是非、来年度すぐというのは無理だと思いますが、5年間の間で、そういった体制づくりを進めていただければと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>御指摘いただいた内容ですが、この総合戦略の中ではこういった表現の仕方にはなっているのですが、江田島市には、「子ども・子育て支援事業計画」という違う形の計画書がございます。江田島市の子育て世代包括支援センターとしての役割は、広島県版のネウボラとしては弱いのではないかとということもあると思うのですが、今回は新たにファミリーサポートセンターを開設するなど、取組を一步ずつ進めております。横の連携についても医療機関と連携を図るように、現在進めておりますので、もう少し温かく見守っていただければ、しっかりよいものをつくっていきたいと思いますので、この総合戦略の中ではこういう表現になっているということで御了承願いたいと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>どんなものが必要かを調べられて、予算がどのぐらいかも考え、県から支援を受ける等そういったところも御相談されたらよいのではないかと、私は思います。</p> <p>次に、子育て世代の方に子育てにおける課題等を御紹介いただくとともに、これらの重点取組項目、基本目標Ⅲで御意見を伺いたいと思います。まず、PTA連合会の委員さん、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は5人子どもがいて、上の3人はもう各家庭を持って、それぞれのところに住んでいるのですが、中学校3年生と中学校1年生の2人が、今、この江田島市で学校に</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>通っています。江田島市の中に1校高校があるのですが、子どもは「どうしても、そこに行かない。やはり外へ行く。外をみたい。」と言っています。そういうところから、子どもを江田島市でずっと育てるとというのが、やはり難しいのです。出てしまえば、外の世界を知って戻ってくるかといったら、また難しいのかなと。地元の高校が1校あるのに、そこに行って、そこから就職なり何なりという形があるのですが、親としては、やはり外の世界も一度見てほしいという思いもあります。私は、元々、呉市にいたのですが、主人の仕事の関係で江田島市へ移住してきて、今15~16年経ちます。江田島市で子どもを生んでから子育てしてきたのですが、問題があるとすれば、やはり病院だと思えます。小児科というものがなく、あっても何曜日と何曜日しか先生がいらっしゃらない内科・小児科の病院しかない。だから、どこの病院に行けばよいのかということに結構苦労したことがありました。</p> <p>ここに4つの基本目標がありますが、やはり今から「若年層」や「子育て世代」を重点的にターゲットにされるのであれば、子どもたちをいかにこの江田島市に残していけるか、そして、もし出たとしても、どうすれば江田島市へ戻ってくるのかというのを親なりにいろいろ考えながら子育てしている段階です。</p> <p>やはり、就職にしてもそうですし、将来も考えたら、現実的に江田島市では難しいのではないかという思いもあります。親として、本当に、これは実現できれば、この全てをクリアできて人口が増えてきて、本当に暮らしやすくなり、今の子どもたち、今、学校へ行っている子どもたちが、この江田島市を支えるという考えを持ってくればと思います。ちょっとずつでないに進まないことだとは思っているのですが、やはり、今、子育てをしている親たちが思うのは、この江田島市に残せる子どもが何人いるだろうということですね。本当に皆さんのお話が素晴らし過ぎて、何と言ったらよいのか分からないのですが、今、中学校3年生が一番抱えている受験をしてどこに行くかという問題等があるので、小さいお子さまを育てている方も、耐震性でどンドンと保育園が閉鎖されて、1箇所を集約していると思いますが、そこに連れていく送迎問題等、いろいろと悩みを抱えていらっしゃると思います。だから、子育て家庭が安心して子どもたちを育てられる環境というの、大事なことです。その辺もやっていただけるとは思うのですが、期待しています。今、それだけしか言えませんが、以上です。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。では、次に、認定こども園保護者会の委員さん、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は小学校に入る子どもがいるのですが、これから成長していく上で、ここに子どもを置いてよいのかというのがあります。小児科の病院がない。あっても違う病名を言われたり、結局、二度手間で行ったりする形になります。下の子がぜんそくを抱えていまして、江田島市の病院に行くよりは呉に行ったほうが早いというのもあります。今、小学校で英語の授業をやっているのですが、保育園でも英語の先生をつけて授業をやってくれているのは、すごく助かります。まだ子どもが小さいので、大きくにつれて、江田島市がどうなっていくのかなというの、私の中ではすごく重要なことと思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、先ほどの高校の問題について、これはまた別の市ですが、その市に県立高校が2校あって、その2校をどうやって地域と連携して地域に根付くように、皆さんが考えられているように高校を卒業して、一部は大学に行って、一部は地元で就職する。そのときにどうしても地元を選ばない問題があって、そういう地域と連携するところで高校や自治体、地域の関係者、商工会等、全部集めて協議会を開いています。高校も、頑張っていないわけではないのです。一生懸命頑張っていて、いろいろPRをしたり、学生を集めたりしている。ただ、どうしてその高校に行かないのかというと、将来を考えたときというところがあるわけです。</p> <p>その将来というのが就職か進学かというところがあるのですが、進学となると、大学が出てきます。全国的に、私がいろいろな高校に行って言うのが、皆さんにそれだけでもすごいと思われると思うので、東大や京大に受かったら行ったほうがよいと思うのですが、「それ以外は何のために大学に行くの?」、「自分が学びたいものは何?」、「将来どうするの?」と言うと、よく分かっていない高校生や親御さん、場合によっては高校の先生も分かっていないことも結構多いです。</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>東京に行くというのは、コロナ禍でなかなかないですが、5年前に廿日市市で私がこういう総合戦略をやっていたときに、皆さんのお話を伺って、親御さんが「ぜひ一度は東京に住まわせて生活させてみたい。」と、ある意味、留学させるような感覚で言われたのですが、「その後、戻ってこないかもしれないですよ。」と言ったら、「それは困る。」というやり取りがあった。やっぱり何を勉強するかとか、どういったものを学びたいか、どういう人間になっていきたいかということを考えようというお話をした。</p> <p>ちょっと、そこは話が違って、しばらくして、うちの大学は、今年1年目で再編が行われました。地域課題解決の人材育成をして、地域の課題を、答えはひとつではないが何かの形で解決していかないといけない。そうでないと問題がずっと残りますから。正直言うと、志願者倍率が再編した後にガクンと下がって大変な目に遭っているというのが、私の本音のところですが、なぜ、そういうふうになるかということ、高校の生徒が基本的に理系、文系、大学名で大学を選んでいる。本当にそこに、どうやって生きていくかとか、地域の中でどうやって生きていくかを考えて選ぶ子も結構いるのです。地域の課題、例えば、豪雨災害等、問題があって、それを解決するために自分は何かをしたいと思って大学に入ってくる子もいるのです。そこまで悲しい事件がなかったとしても、若い人や世代にどんなものが課題なのかを勉強してもらって、その課題を自分たちでいろいろ解決しましょう、大人も一緒に一生懸命にやっているけどうまくいかない。答えがないけれども、その答えがないものに対して、そういった勉強をして、いろいろな知識やいろいろな技術を身に付けて、それをもって、もしかしたら、また解決できるかもしれないと、そういったところを学ぶことができるような大学にしたいということで、学部を再編しているのです。まだ、1年目で始まった瞬間にコロナで学生が誰も来ないので、大変な状況ですが、結構いろいろなカリキュラムが用意されていて勉強しているという状況が見られます。今まで「県大の学生は、とても真面目で裏を返せば機転が利かなくて役に立たない。」なんて産業界から言われていたというのを、実は知っているのですが、そういった愚直な人でも、真面目で一生懸命やっている人がちゃんと課題意識を持って、解決しようというところがあり、そういうことができるようになったら、もっと地域で活躍できる人材ができるのではないかと考えているわけです。</p> <p>この話をしたのは、なぜかということ、そういうフィールドがやっぱり必要なので、今後、そういう授業もあると思うので、江田島市の中で一緒に勉強を、皆さんの方が先生になるのかもしれませんが、そういったことを教えてくれるようなフィールドがあればよいかなどというのと、逆に、皆さんの方が、そういう大学生に対して、縁がありますので、それをきっかけにして魅力ある島というところをPRしていただけて引っ張り込むというようなことを考えていただければよいのではないかなと。</p> <p>もうひとつ、よく最近、国の方でも県でもよく言われていますが、いろいろな技術を高度化して、あるいは新しい考え方を入れて、産業構造の変革を考えて、コロナの後の社会において、産業構造自体も変わっていくだろうということを考えて、それができるような環境というのが、江田島市でも、そういうのが用意されていると面白いかなと思います。今、見ていると、東広島市の広島大学近辺ばかりがそういうところが集まってきたり、江田島市はそんなのはできないではなくて、何かしら、いろいろサンドボックス等があったりして、縁が生まれてきているので、それを活用してやっていけばよいのではないかなと思います。</p> <p>あと、私は、これに対してリクエストがあります。せっかく市民の皆さんとワークショップをやって、こういったアイデアを出していただいていると思います。今後、これが具体でいろいろな施策として動いていくと思うのですが、参加していただいた皆さんと、そこで終わりというのではなくて、定期的にでも、そういったひとつのワークショップで出てきたものにここの有識者の皆さんの意見を加えて、やっている、やっていないというところと、うまくいっている、いっていないというところも、互いにチェックし合うような体制も入れていただければよいのではないかなと思います。</p> <p>ひととおり、皆さんの専門分野について、御意見を伺いました。何か他にここでおっしゃりたいことがございましたら、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>残り時間は、どのぐらいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>あと10分です。</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

委員	<p>先ほどの話の続きです。人口が減るということは、一生懸命事業を頑張ってもらおうと、いろいろなことで組み立てて、頑張っていくとしても、例えば、経済活動において、人口が減るということは、モノが売れない。モノが売れないと、お店は当然少なくなっていくって、さらに暮らしにくくなる。江田島市に来て何もないと、大型スーパーも江田島市の人口規模でどのくらいの店舗維持ができるか、当然、プロですから一生懸命数字を見ていらっしゃると思っています。我々には、何とか江田島市内で再投資をすることが可能な地域に、何とかしていかないといけない。そのためにはモノをつかって、外に売って外貨を獲得するという産業運用を一生懸命、応援させていただきたい。我々は、通常、モノを仕入れてきて、江田島市の中で売っているが、これは結局、江田島市の中からお金は出ないし、仕入れるためにお金が出ます。いつまで経っても経済活動として、モノが増えていくような形にならない。仕事をつくっていきましようといっても、お店もなくなる、仕事もなくなる、住んでも食べていけないという話になるので、そこをなんとか、一生懸命、新しく創業していただくという方を応援させていただくことや、既存の企業を第二創業といって違う分野、例えば、運送会社が全く違う仕事を始めることで雇用をしていただくとか、地域産業をやられている方の中でも新たにつくった分野で17人ほど人を雇用することができたとか、そういった成功例もありますので、そういうことを一つひとつ、今はつなげていくしかないかなど。そのためには、先ほども言いましたけど、金融機関の御支援や、国、県、市の施策を多に活用させていただきながらやっていきたいと思っています。</p> <p>もう一点は、縁を有する人を増やしましょうということで、やっぱりつながりがないと江田島市を知っていただけない。広島市内で江田島市のことなんか考えて毎日生きているわけではないという方もたくさんいらっしゃると思うので、そういった広島市内に江田島市のことをよく理解していただくようなものがないかなど思っていました。先ほどテレビの話が出ましたけど、なぜ、ローカルテレビで江田島市のことをよく流すか、皆さん知っていますか。あれは、課長のおかげです。一生懸命、テレビ局に訴えて、江田島市のことを、とにかくニュースに取り上げてくれということを訴えていただいた。この方も江田島市役所に御縁があって来ているわけですので、こういう方が見えないところで一生懸命頑張っているからです。私は、広島県全体で集まる会社と話をするとき、江田島市のニュースはよくテレビに出ると言われる。江田島市は、すごく目立っているのです。広島県内においてはです。全国や全世界はまだですけど、県下では一番目立っている地域ということです。縁をつくるためには、今、東京で活動している「東京江田島ファン倶楽部」、課長が一生懸命やられて私も参加させていただくのですが、もしかしたら既に準備されているかもしれないのですが、広島市内に「広島江田島ファン倶楽部」をつかって、江田島市と広島市内の人をつなぐ。江田島市出身者は広島市内にたくさん住んでいます。いろいろな仕事もしています。里帰りもし、お父さん、お母さんが江田島市に住んでいるかもしれないし、向こうで成功されて事業をされている方もいらっしゃるの、その連携を深めて、江田島市のモノを売っていただくとか、江田島市のPRに参加していただくとか、江田島市に来てもらうとか、ふるさと納税をしてもらうとか、いろいろなコミュニケーションをつかっていく。そういう具体的な活動をしていきたい。これをして縁をつないでいただいて、頑張っている人も見ていただきたい。そういう人に紹介したいという思いもありますので、是非とも、そういう江田島市のファンクラブ、広島市でつくっていただければと思います。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。つくりますか、ファン倶楽部。</p>
事務局	<p>はい。今年度の途中から走らせている事業で、「江田島市応援隊 Forza(フォルツァ)!エタジマ」というLINEを使ったファンクラブ組織みたいなものをつくってみたい。現在、LINEですので、若い方が中心になるのですが、100ぐらい来ているかもしれない。100は行ってないか。行ってないです。100に届かないぐらいの方が、江田島市を応援したいということで申込みをしていただいております。本当はやりたかったのが、そういった方にイベント情報を流して江田島市に来ていただくなど、江田島市の特産品を市内とかで売っているので買ってくださいますとやってみたくはありますが、コロナの関係で、なかなかこの団体を生かしていないのですが、ちょっとコロナが落ち着いたところで、そうやって応援したいと言っている方が、もう確保できていますの</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

事務局 (続き)	で、そういったところを糸口にしていろいろ働きかけていきたいと思います。御意見ありがとうございます。
座長	<p>それでは時間もなくなってきたので、第2期人口ビジョン・総合戦略(案)について、事務局において、本日の御意見を受けてブラッシュアップしていただいて、パブリックコメントの進めを進めていただきたいと思います。</p> <p>それでは、次に進みます。報告事項3件について、事務局から報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 第1期総合戦略数値目標の進捗状況について【参考1】</p> <p>(2) 令和2年度市民満足度調査の結果について【参考2】</p> <p>(3) 地方創生推進交付金事業の実施状況について【参考3】</p> <p>※ 内容は、参考1～参考3のとおり</p>
座長	ただ今、事務局から報告がありました。質問や御意見がございませうか。お願いします。
委員	<p>参考1の資料のところにはイノシシの被害額が挙がっております。そこを見れば、減っているのよかったですと見られるのですが、実は違ひまして、御存知のとおり耕作放棄地とセットの問題です。農業全部でそうですが、農業者の減少に伴って耕作放棄地が増えているという状況の中で、農業者の被害報告というものが、実は、耕作放棄地と相まって出されていないというのが、全国的な話です。ですから、単純に金額が減っているからよいというのではないということだけは、御理解をいただければと思います。</p> <p>それと、もう一点は、実はイノシシの被害が単に農作物だけではなくて、人への影響があるということです。今までは農地だけだったのですが、実は私もこの秋に、国道沿いに住んでいるのですが、家の庭まで入ってきて、ミカンの段ボールを食い散らかされました。つまり、だんだん民家の方に入ってきているという状況です。私も猟友会に入っていますが、地域の人から何とか地域の中に檻を設置してくれという話、あるいは鉄砲で撃ってくれという話があるのですが、鳥獣法の法令の中で、難しい状況があります。そういった中でこれからは、イノシシの被害が農作物のみならず、生活へもどんどん出てくることが多いに予想されますので、その辺の知恵を農業者だけ、あるいは猟友会だけでは限界があるので、そういった知恵があれば、またお願いしたいということです。以上です。</p>
座長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>さっきのプロジェクトにA Iと書いてあるものや、今のイノシシの話、実は、県内のいろいろなところで問題になっていて、総務省等で、今、いろいろな市町と協議しています。もし、私らの研究が採択されたら面白いことが起きますので、そのときは、是非、声を掛けていただければと思います。今言ったように、いろいろな課題があると思うのですが、それを人もいないし、なかなか難しいし、DXやA I等で相談があれば、私のところに御連絡をください。一応、そちらの方の専門家なので。</p> <p>では、他にないと思いますので、第1期総合戦略についてのお話をしないといけないのですが、今年度が最終年度となっていて、先ほどの参考資料の1のところを見ると、赤字で目標値の変更が書いてあるところがあります。下方か上方かというので、いろいろ書いてありますが、悪い方向に変更したところも、中にはあると思いますが、理由は書いてありますので、赤字のところを見ていただいて、これはと思うところがあれば、今、指摘をしていただければと思います。前回もこういった目標値の変更は行われていますので、特に御意見がなければ、これを変更したものを承認ということにして、取組をこのまま継続していただいて、ちゃんと数値目標が達成しているかを毎年検証していきたいと思います。逆にいえば、目標数値が何らかの理由で変更されるのは、この数値の設定が実はまずいのではないかとということがあつて、本来は、ちゃんとチェックしていく必要があるのではないかなと思います。</p> <p>市民満足度調査については、毎年行われているようなので、引き続き行い、その分析を施策の改善につなげていただければと思います。</p> <p>地方創生推進交付金事業については、今年度が3箇年のうち、2年目に当たるようです。来年度の検証会議でも、その時点での検証を行いたいと思います。また、体験メニューの造成は、第2期総合戦略に掲げる重点取組項目のひとつでもありますので、継続</p>

【令和3年1月21日：令和2年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

座長 (続き)	<p>的に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>難しい言葉ではなくて、市民満足度調査は、皆さんに御回答いただいたものを集計して、継続して残していつているというところで、悪くなったポイントがどういところかも見ていただいて、市役所がちゃんとやっていないからだというものもあると思いますが、ちゃんとそれぞれの理由があると思いますので、御覧ください。</p> <p>他に何か御意見等ございますか。</p> <p>ないようでしたら、以上で協議及び報告を終了いたします。閉会に当たって、事務局から何かありましたら、お願いいたします。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>本日は、長時間にわたって、ありがとうございます。</p> <p>今後の流れですが、先ほど御説明したように、これからパブリックコメントの受付に入りまして、最終的に、最終修正を重ねて、もう一回、皆さんに御意見をいただくということを入れたいと思っております。実際の会議になるか、書面になるかというのは、また検討させていただければと思うのですが、その際には、よろしくお願いたします。</p> <p>また、来年度以降もこの会議を開かせていただいて、今度は第2期の総合戦略の検証というものをお願いできればと思いますので、委員の改選の受付等もございしますが、それも併せて、よろしくお願いたします。事務局からは、以上です。</p>
座長	<p>10分ほど、時間が延びてしまって申し訳ございませんでした。皆さま、御出席ありがとうございました。また次回、書面審査だと思いますが、最後までよろしくお願いたします。お疲れ様でした。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。(終了)</p>